

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400021		
法人名	(株) イクロス		
事業所名	グループホーム アネックス パル		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2666		
自己評価作成日	平成26年5月23日	評価結果市町村受理日	平成26年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3092400021-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるように一日のスケジュールや行事ごとなどを決めずに、個人の自由に任せ、ゆったりとした生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは平屋立てで広々と明るく自然に囲まれた環境にあり、小規模多機能型居宅介護事業所と併設され、隣接の敷地にもグループホームやデイサービスがあり二つ目のホームとして開設されています。「利用者様の尊厳を守りチームワークを高める」という法人全体の方針の下、「共にゆっくり歩こうよ」とホーム独自の理念を職員と考え、職員がゆったりと利用者に関わる支援を大切に個々のペースで過ごすことができます。管理者は職員の育成に力を注ぎ、認知症の理解や職員の介護技術の向上を目指し、細かなところまでケアが行き届くよう指導しています。また、地域とのつながりを大切にし、家庭的な雰囲気の中で職員は利用者の優しさに励まされながら、共に笑顔で楽しい日々を送れるよう支援に努めているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳」ということで開所前に、職員みんなで考えた理念であり、一人ひとりが理解し日々の実践につなげている	「共にゆっくり歩こうよ」というホーム独自の理念は開所前に職員全員で作り、玄関とフロアに掲示しています。地域の中で安心して暮らし続けられるよう利用者の思いを知り、個々のペースを大切に生活に向けてのケアに努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるような支援を心がけ、地域の行事等にはなるべく参加し、交流が持てるようにしている	自治会に入会し、地域の行事は回覧板で情報を得ており夏祭りや夜店にも出かけています。小学校の運動会には招待があり、テントや場所の確保などの配慮をしてもらっています。また併設の事業所から小学校へは認知症サポート講座の講師として出かけホームも共に認知症について地域に理解してもらえるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、地域に貢献しているが、グループホームでは、認知症の人の理解や支援の方法を日々の実践の中で積み上げている状態であり、何もできていない 今後は、地域の人々に貢献できるようにしていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の近況や、サービスの報告を行い、話し合ったことや、意見などがあれば、サービスの向上に生かしたいと考えている	運営推進会議は地域包括支援センター職員や地域住民、家族代表、利用者等の参加の下、年5回開催しています。現状報告や活動報告、事故報告後に意見交換をしています。地域包括支援センターからは災害時の備蓄についてのアドバイスがあり、出された意見は検討し運営に活かせるよう務めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村には頻繁に出向き、担当者とは密に連絡を取りあい、協力、信頼関係を築けるようにしている	町役場の窓口へは手続きや困ったことやわからないことは出向いたり電話で気軽に相談しています。また行政からの訪問もあり、その際にホームの実情を報告し、協力体制を築いています。ファックスで研修案内が届いた時は状況に応じて参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は社内・外研修にて身体拘束について学ぶ機会があり、身体拘束ゼロ推進委員会を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修に年1～2回参加し、研修に参加した職員が伝達し、全職員に周知しています。身体拘束ゼロ推進委員会と共に具体的な事例や言葉による制止等について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は施錠せず自由に入出りでき、行動を制止せず一緒に付き添ったり見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は社内・外研修に参加し、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会があり、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する社内・外の研修に参加し、学ぶ機会を持ち、必要性が生じれば関係者と話し合い活用できるように支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、不安や疑問点があれば、理解、納得して頂けるように十分な説明を行い、不安を解消できるように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会時に、職員と話しやすい雰囲気づくりを心がけ、意見や要望をくみ取れるようにし、運営推進会議の場や、介護相談員を受け入れることで外部者にも意見や要望を表せる機会を設けている	面会時や電話で状況を報告しながら意見や要望を聞いています。介護相談員の受け入れもあり近々、家族会も開催する予定です。居室間違いの苦情や洗濯物は個別に洗ってほしいとの要望等には速やかに対応し、改善につなげています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2,3カ月に1回程度の割合で会議を持ち、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、常時気づいたことがあれば、話し合いながら運営に反映させている	2～3ヶ月毎の会議の場で意見を聞いたり、職員の様子を見て管理者が気づいた事などはその都度声をかけ意見や提案を聞いています。職員の自己目標を基に年1回、施設長を交えた個人面談があり、意見や考えを言える機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得など個々のスキルアップのために協力し合い、職員一人ひとりが向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの実践や力量を把握し、レベルに合った研修に参加する機会を設け、職員のスキルアップを求めるとともに、現場でのサービスの向上につなげたいと考えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加したり、実習生の受け入れの場を提供することで、同業者と交流する機会を作り、その時に出席した意見や、提案はサービスの質の向上に取り入れている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安、要望などに耳を傾け、家族からの情報をもとに、本人の安心を確保するための関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の安心を考えた上で、家族が困っていること、不安なことが解消でき要望等にも耳を傾けて家族にも安心して頂くような信頼関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際には、本人や家族、支えている関係者から十分な情報収集を行い、本人の状態を把握し、必要としている支援を見極められるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力を把握し出来る事をして頂きながら暮らしを共にする者同士の関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設側ですべて行い、家族を除外するのではなく、家族の方々にも協力して頂きながら、共に本人を支えていけるような関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院やスーパー理容室等を利用し、今までの関係が途切れないよう支援を行っており、ご近所の方々にも気軽に面会に来て頂けるよう努めている	行きつけの美容室やスーパーに出掛けたり自宅周辺をドライブすることもあります。手紙の受け渡しや電話の取り次ぎをしたり、外出や外泊時は日時の調整や準備等の支援をしています。知人や友人、親戚の方が面会に来られた時は居室や応接室で寛いでもらい、馴染みの人との関係が途切れない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や性格、感情の起伏を把握し、利用者同士の関係を見極めながら、問題があれば改善し、利用者同士が安心して支えあえるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してからも、本人や家族に会えば、あいさつや世間話し、近況報告をし合い、不自由をしていることがないかを聞いたり、本人や家族の相談相手になれるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が安心し、満足して過して頂けるよう一人ひとりの思いや、暮らし方の希望を把握できるように努めている	入居前に本人や家族の意向を聞き、入居時には利用者の様子を見ながら生活暦や暮らし方の希望等聞き取りを行っています。日々の関わりの中で得た思いに繋がるような情報をアセスメントシートに追記しながら思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を、本人、家族、関係者から十分に伺い、本人の暮らし方が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から一日の過ごし方や心身状態有する力等の変化に注意し、一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを基に、必要な関係者や職員の意見を反映させ本人らしい暮らしができるよう現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや本人、家族の思いを基に職員の意見を聞いて介護計画を作成しています。職員の意見を聞き3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画を見直しています。個人記録のファイルに短期目標を記載し、介護計画に沿った日々の支援を記録できるよう取り組んでいます。家族や医師の意見も反映し計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のD-4焦点情報を、個人記録に活用し、そこから得られる情報は職員間で共有し、実践や介護計画の見直しにも活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にも生じる利用者のニーズに対応できる支援を心がけている 必要に応じて職員等の増員も行えるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や小学校の行事に参加させて頂いたり、ボランティアの訪問を受け、歌や踊りを披露して頂き知っている歌が始まれば口ずさみ参加し、いつもと違う雰囲気を感じ暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望を大切に出来る限り家族の協力を得ながらかかりつけ医に受診し、適切な医療が受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の継続ができることを説明しています。ほとんどの利用者の主治医がホームの協力医で受診は職員が対応していますが、家族が対応する方もいます。歯科や専門科医には家族や職員が相談しながら受診で対応しています。週1回訪問看護師による健康管理や主治医との連絡調整等を行い、連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携を取り、日常生活の中の気づきや情報を伝え利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際家族に同行し病院関係者との情報交換や相談に努め、何かあれば相談できるような関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所ができる事を説明させて頂き、その後、重度化した場合や終末期のあり方について、家族の要望を聞き、必要となった場合には家族、関係者と共にチームでの支援に取り組んでいる	重度化や終末期については利用者の状況をみながらホームで出来ることと出来ないことを説明し、意向を聞いています。看取りに関する指針を作成し、本人や家族の意向に添える支援をしたい考え、医師や訪問看護師、家族等の協力の下、方針を共有しながら取り組んでいこうと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に白浜消防署の協力で行う事故発生時に備えた研修の参加を義務付け、訓練を重ねることで実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を行い、消防署の協力で行う消火、避難訓練には、利用者と一緒に参加し、一人ひとりの力に応じた避難方法や避難経路を確認し、防災意識を高めている	避難訓練は年2回行い、内1回は消防署の立ち会いの下、昼夜を想定し通報、避難誘導等を利用者と一緒にを行っています。また法人と合同で消火器の使用方を交えた訓練を行ったり、AEDを設置し使用方法や心肺蘇生の指導を受けています。	運営推進会議や回覧板を利用し地域へ避難訓練の案内をされることから始め、地域との協力関係を築く第一歩にされてはいかがでしょう。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を理解し力に応じた声掛けを行いプライバシーや誇りを損なわないよう対応に注意している	年1回の接遇マナー研修や新人研修で一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーを損ねないケアについて学んでいます。トイレ誘導等排泄に関する声かけは耳元で声かけし声の大きさにも気を配り、ドアは開閉や入室時のノック等の配慮にも心がけています。不適切な言葉かけ等があった場合はその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、希望を聞き、自己決定を出来るような働きかけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで毎日を自由に過して頂いており、希望等があれば出来るだけ希望に添った支援ができるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服は自分で用意し着用しておられる人がほとんどで、ヘアースタイルや毛染め等、気になり始めた方には、かかりつけの美容室に行けるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞き、献立に取り入れたり、一緒に買い物に行き食材を選び、本人の力を活かし準備や片付けを手伝って頂いている	献立は利用者の希望を取り入れ管理者が考えています。利用者と一緒に買い物に行き、材料を切ったり、味付けや盛り付け、後片付け等に携わってもらい、利用者の力を生かせるよう支援しています。職員も一緒に同じテーブルを囲み食事を楽しめるように支援し、外食や手作り弁当を持って出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事バランスを考えた献立を作り、一人ひとりの食べる量や水分量を把握し、状態や力に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行って頂き、義歯を使用している方には、入眠前に洗浄剤を使用した口腔ケアを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握し、トイレで自立した排泄ができるように支援している	排泄の支援については、紙パンツを使用している方もいますが、ほとんどの方が自立し、現状維持を目指しています。排泄支援が必要な方はチェック表で排泄のリズムを把握し、しぐさや行動で察知しトイレ誘導しています。トイレまで遠い方は夜間ポータブルトイレを使用し、失敗を減らし出来るだけ自立できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分量や食事内容を工夫したり、運動への働きかけを行い予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り一人ひとりの希望に添い入浴して頂いている	基本的に週3回の入浴と決めています。希望があれば毎日や午前、午後のどちらでも入浴してもらえます。日曜日や正月には隣のデイサービスにある温泉風呂で温泉気分を味わってもらったり、観光地の足湯にも出かけています。入浴を拒否される方はなく、好みの石鹸やシャンプーを使用することで入浴を楽しめる支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は共有スペースや各居室で自由に過ごし、夜間は、個々の居室で休んで頂くようにし、就寝中は室温や入眠状態に気を配り安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服用している薬の表を作り、いつでも確認できるように置いており、適切な服薬支援を行い、症状の変化にも注意を払っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力に応じた役割を持って頂き、張り合いのある生活が送れ、楽しみ事があれば、気分転換の意味も含めた支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添った外出ができるように努め、希望に添えない場所には家族にも協力をして頂いている	日常的に外に洗濯物を干しに行ったり、近くのログハウスに行ってお茶を楽しんでいます。近くの公園へ季節の花見やバラ園、コスモス畑等に弁当を持って出かけ、天気の良い日には近隣を散歩しています。観光コースや自宅周辺をドライブしながら外出を楽しめる支援を心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの人は、家族に紛失の可能性等を説明させて頂き、了解を得たうえでお金を所持しておられるが、それを使用することはない買い物に行った時には職員がまとめて支払うようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話を掛けたり、手紙を出したりはしていないが、手紙を受けたり、電話があれば、取り次いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間で、利用者が不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、できるだけ自宅に近い居心地の良い空間づくりができるように心がけている	広い共用空間があり、テレビを見ながらソファでくつろげるよう配置を工夫しています。利用者から見えないようトイレの横へ観葉植物を置く場所も工夫されています。掃除は職員と一緒にいき、簾で光の調整をしたり、窓を開けて空気の入替えをする等、居心地の良い環境づくりに努め、散歩に行った時に野花を摘んでフロアーに飾り季節を感じています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で利用者が必要としている場所に、ソファやいすを配置し、思い思いに過ごせるような居場所を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の安全を考慮しながら、本人が必要と思われるものを家族が自宅より運んで下さり、心地よく過ごせるようにされている	クローゼットとベッドが備え付けになっています。テレビや冷蔵庫、使い慣れたテーブルや椅子、姿見等愛着のある物が持ち込まれ、配置は家族と一緒に考えています。大切な人形や位牌を身近に置き安心して生活できる居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力の状態を活かして、安全を重視し出来る限り自立した生活が送れるように工夫している		